

JFA & JFMA NEWS

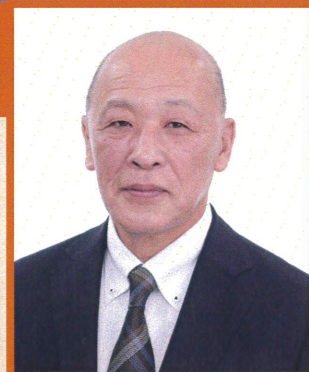
JAPAN FUTON ASSOCIATION & JAPAN FUTON MANUFACTURES ASSOCIATION NEWS

Vol. 142

2025年1月1日発行

2025年 年頭所感

一般財団法人日本ふとん協会
理事長 米山 元章



新年あけましておめでとうございます。皆様には、日頃より日本ふとん協会の活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の日本経済は、引き続き様々な課題に直面いたしました。物価上昇が続き、生活必需品やエネルギーコストの高騰が家計を圧迫する中、景気回復の兆しは見られるものの、慎重な対応が求められる状況です。このような経済環境は、私たちふとん業界にも大きな影響を及ぼしました。気候変動の影響により夏が長引き、冬の到来が遅れる傾向が見られ、ふとんの販売にも影響がありました。また、原材料や諸経費の高騰によって利益も圧迫され、厳しい状況が続いております。こうした状況の中、会員各位のご意見やご要望に基づき、業界が直面する課題に対して具体的かつ効果的な解決策を検討し、新たな取り組みを通じて、業界全体が持続的に発展できるよう微力ながら活動を続けております。

昨年リニューアルした「JAPAN FUTON」ラベルを通じて、日本製ふとんの価値を広く伝え、認知度の向上に努めております。このラベルは、日本製ふとんの優れた品質、技術、そして伝統を象徴し、より多くの方々にその良さを知っていただくための取り組みです。また、新たな市場開拓の一環として、協会の公式ウェブサイト販売サイトを開設し、販路の拡大にも取り組み始めました。

2025年は、日本ふとん協会にとって設立70周年という節目の年を迎えます。この記念すべき年を機に、会員が一堂に集い、交流と連携を深めるためのイベントを企画しております。これを通じて、私たちの絆をさらに強固なものにし、日本製ふとんの価値と未来について共に考える場としたいと考えております。

厳しい状況が続きますが、こうした時こそ業界全体の結束と連携が求められます。会員各位のご協力を得ながら、互いに知恵を出し合い、新たな可能性を開拓する一年にしていきたいと思います。

本年も引き続き、日本ふとん協会へのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって健康と実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

ブランディング委員会

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

この度、ブランディング委員会では、新JFAブランドの認知度向上の一環として、日本ふとん協会の公式オンラインショップを立ち上げました。(https://shop.futon.or.jp)

「ほっと、ぐっすり。」をコンセプトとし、協会が認定した国内工場で製造された安心・安全な「日本製ふとん」であることを証明する「JAPAN FUTON」認証ラベルの付いた上質なふとんを適正価格で提供する販売サイトとしました。

第一フェーズとして、まずは「にっぽんふとんCLASSIC」シリーズをスタートさせ素材、製法、仕立て、品質、すべてにおいて協会が推奨するスタンダードなクラスのふとんを揃えました。今後も同クラスの商品のラインナップを随時増やしつつ、第二のフェーズ「にっぽんふとんプロフェッショナル（仮称）」という上位モデルの商品群も追加していく予定であります。

セリングページと並行して、サイト内に「ふとんのはなし」という情報コンテンツページも作成し、一般消費者の疑問に布団製造のプロが答えるQ&Aコーナーも設置しました。これらの情報をSNSと連動して発信も行っていくことで集客を期待しております。

今後は、更なるブランド認知度向上の為に、アンテナショップ出店や展示会開催等、各種プロモーション活動等々についても鋭意検討中です。

限られた人員とコスト、時間のなかで最大限の効果を出せるよう工夫しながら活動してはおりますが、成果が表れるまでには時間を要することと思われまます。会員の皆様にはお気づきの点がございましたら、ご意見やご指摘をいただきたくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



委員長
石田 裕紀子

価値創造委員会

新年明けましておめでとうございます。

昨年は当委員会の活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も会員の皆様とともに、ふとん業界の発展に向けた活動を進めてまいります。

以下に、昨年の取り組みと本年度の方針についてご報告申し上げます。

『昨年の主な取り組み』

当委員会では、ふとん業界が直面する課題を解決し、持続可能な成長を実現するため、以下の活動を行いました。

- ①ふとんリサイクル事業・・・SDGsへの貢献としまして環境に配慮した製品づくりやリサイクルの促進をテーマに、各会員企業が取り組むべき指針を共有。ふとんのリサイクルに適したマークの制定（プラマークの様なもの）を検討。
- ②ふとんの災害支援・・・被災地域に対する支援物資としてふとんの供給体制について検討。
- ③ふとん用製造設備のメンテナンス事業・・・会員の皆様のご協力のもと全国の生産設備メーカー様・マシンメーカー様・メンテナンス業者様および側の縫製業者様をリストアップし事務局で一元管理。情報共有を進めました。
- ④日本製ふとんの輸出についての調査研究・・・海外展示会出展の情報収集や海外エージェントとのコンタクトをスタート。

『本年度の活動方針』

2025年度は、業界の持続的発展を目指し、以下の取り組みを重点的に進めます。

- ①製品価値の向上支援・・・消費者ニーズの多様化に対応すべく、新素材や技術の活用を推進し、快適性や機能性を高める商品開発の支援。
- ②マーケティング支援・・・JAPAN FUTONの認知向上を目指し、デジタルマーケティングの活用事例を紹介するセミナーの開催やコロナ禍以降の急激な市場変化に対する市場調査・消費者ニーズにアプローチするマーケティングの取り組み等を支援。
- ③海外販路開拓支援・・・国内市場に留まらず、海外市場における日本製ふとんのブランド価値向上を目指した活動を展開します。JETROや中小機構などの輸出サポート機関の活用や海外展示会の出展。

当委員会では、会員企業の皆様価値創造を実現するための具体的な支援を引き続き行ってまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



委員長
西岡 一則

第20回 JFA&JFMA 研修会 開催

2024年7月11日から12日にかけて、新潟県で「第20回 JFA & JFMA 研修会」を開催しました。本研修会は、日本ふとん協会と日本ふとん製造協同組合が共催し、ふとん製造業界の発展と自己啓発を目的とした毎年恒例の催しです。20回目の節目を迎えた今回は、国内繊維製造業が直面する厳しい環境を打破し、業界におけるブランディングの重要性を再確認することと、成功事例から新たな視点を獲得することを目的としました。

初日：五泉ニット工業協同組合での研修

JR新潟駅に集合し、参加者は車に分乗して五泉ニット工業協同組合を訪問しました。新潟県五泉市は国内でも有数のニット産地であり、「五泉ニット」という地域ブランドを確立している同組合は、その発展に尽力しています。

今回、「五泉ニット」の取り組みを紹介して下さったのは、協会のブランディングを監修している(株)フレームの石川社長です。研修当日は、五泉ニット工業協同組合の高橋事務局長がブランドを立ち上げた背景や、地域に根ざした高品質なニット製品づくりへの具体的な取り組みについて詳しく説明してくださいました。

「五泉ニット」は、伝統的な技術と最新のデザインを融合させることで、国内外で高い評価を得るブランドへと成長しています。また、環境への配慮を大切に、使用素材の見直しや製造過程での廃棄物削減にも積極的に取り組んでいます。さらに、若手人材の育成にも力を入れ、地域の雇用促進や技術継承を通じて、五泉市全体の産業活性化にも大きく寄与しています。こうした取り組みが地域ブランドの強化につながり、「五泉ニット」のブランド価値を支えています。

五泉ニット工業協同組合の直営ショップ

「LOOP & LOOP」

組合事務所と同じ施設にある直営ショップ「LOOP & LOOP」を見学しました。組合の事務所をリノベーションして作られた複合施設で、セレクトショップやカフェ、コワーキングスペース、イベントスペースなど多彩な機能を備えています。この直営ショップは、五泉ニット製品を消費者に直接届け、ブランド価値を向上させると同時に、地域住民や観光客との交流を促進し、地域全体の活性化に貢献する場としての役割を担っています。



第20回 JFA&JFMA研修会 参加者名簿

	会社名	役職	氏名
1	(株)エビス	代表取締役社長	米山元章
2	アサギ(株)	代表取締役社長	浅黄敬之
3	福島寝装(株)	代表取締役社長	佐藤雅己
4	木村綿業(株)	代表取締役	木村裕子
5	木村綿業(株)	専務取締役	石田裕紀子
6	木村綿業(株)	取締役	古俣茂
7	(株)ニシザキ	代表取締役社長	西崎匠
8	(株)ダルマックス	代表取締役社長	大賀茂功
9	花嫁わた(株)	常務取締役	山口美真
10	アサギ(株)	支店長	浅黄利洋
11	(株)エビス	取締役	米山幸平
12	(株)エビス	営業部	海藤知弘
13	(株)藤田屋	代表取締役社長	石川幸弘
14	コドモわた(株)	代表取締役社長	河村佑太
15	大恵ウール(株)	代表取締役社長	西岡一則
16	昭和西川(株)	執行役員MD本部長	河合重宏
17	昭和西川羽毛製造(株)	取締役副社長	星野一成
18	日本ふとん製造協同組合	事務局	只野悟
19	一般財団法人日本ふとん協会	事務局	金井一浩



五泉ニット工業協同組合の直営ショップ「LOOP & LOOP」にて

㈱ウメダニットの工場見学

続いて、1961年創業の老舗ニットメーカーである㈱ウメダニットの工場を訪問しました。工場見学では、梅田会長自らの案内で、同社の取り組みについて詳しく説明していただきました。同社は、最新の編み機や全自動裁断機、多彩な特殊ミシンを導入し、パターンの完全CAD化や生産ソフトの導入など、製造の効率化と品質向上を目指した設備投資に力を入れています。また、編みから始まる全製造工程において、部署ごとに目標設定を行い、それに基づいた人材育成マニュアルを整備するなど、従業員のスキル向上と部署間の連携強化にも努めています。リーダーを中心に各ラインが円滑に機能する体制が整っている点も印象的でした。

さらに、ウメダニットでは直営ショップを運営し、自社製品を直接消費者に届けることで、ブランドの価値向上や新たな販路開拓にも取り組んでいます。梅田会長の説明からは、製品作りに対する同社の誇りと情熱が伝わってきました。

夜の懇親会

夜には、ホテル近くの「えびす鯛」で懇親会が行われました。参加者たちは新潟の美味しい地酒や新鮮な魚料理を堪能しながら、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。普段なかなか会えない同業者同士、仕事の話からプライベートな話題までさまざまな話が飛び交い、笑いが絶えないひとときでした。リラックスした雰囲気の中で、皆が本音で語り合い、これからの業界の発展に向けて新たな刺激を得る楽しい時間となりました。

2日目：今代司酒造の見学

2日目は、希望者を募って今代司酒造を訪問しました。今代司酒造は、伝統的な酒造りを守りつつも、現代のニーズに応える革新を取り入れた新しい酒づくりを行っています。酒造りの工程や企業理念について学び、地域と都市、人と人を結ぶ酒蔵としての役割を再認識できたことは、参加者にとって大きな収穫でした。

まとめ

2日間にわたる研修会を通じて、参加者たちは繊維業界の他業種であるニット製造業の取り組みから多くの知見を得ることができました。特に、五泉ニット工業協同組合の地域ブランドとしての戦略や、(株)ウメダニットの技術革新と人材育成に対する取り組みは、ふとん業界のブランディング活動や製品開発、人材育成にとって大きな参考となりました。また、今代司酒造の伝統を守りつつ革新を追求する姿勢からも、地域との連携やブランド価値の向上に向けた新たな気づきを得る機会となりました。

第20回という節目を迎えた本研修会が、業界全体の活性化と持続的な発展に向けた機会のひとつとなれば幸いです。参加者それぞれが、研修や交流を通じて得た気づきや学びを、今後の活動や自己成長に活かし、業界の未来を支える一助となることを期待しています。





2024年10月30日と31日に東京国際フォーラムで開催された「組合まつり in TOKYO ~技と食の祭典~」に、日本ふとん協会と日本ふとん製造協同組合が共同で出展いたしました。このイベントは、東京都中小企業団体中央会が主催し、東京を中心としたさまざまな組合がそれぞれの技術や文化を披露する、活気あふれる祭典です。私たちは、この場で「JAPAN FUTON」マークの価値を多くの方にお伝えすることを目指し、出展の準備を進めてまいりました。

出展ブースでは、日本ふとん協会のブランドである「JAPAN FUTON」ラベル付きの商品を展示し、来場者の皆様に実際に手に取っていただける機会を設けました。ふとんの柔らかさや心地よさ、そして日本製ならではの丁寧な作りに触れていただくことで、来場者の方々からも「こんなに心地よいものがあるんですね」といった驚きや称賛の声が寄せられました。また、ブースでは協会のホームページに簡単にアクセスできるように、QRコード付きのウェットティッシュを配布しました。日常生活の中でふとんに関心を持ってもらえるよう、ささやかな工夫を凝らしました。

会場でお話を伺ったところ、残念ながら「JAPAN FUTON」ラベルについてご存知の方は少なく、改めてこのラベルの認知度向上が重要だと実感しました。しかし、ふとんの実物に触れていただいたことで、品質の良さに感動された方も多く、「次にふとんを買うときは JAPAN FUTON マークのついたものを探してみたい」というお声もいただきました。このように消費者の生の声を直接聞くことができたのは、私たちにとって大変貴重な情報でした。

この展示会での経験を活かし、今後も引き続き「JAPAN FUTON」ラベルの認知度を高めるために努力してまいります。これからも、日本ふとん協会は日本製ふとんの安心・安全、そして心地よい眠りへの提供を目指し、「JAPAN FUTON」を皆様に愛されるブランドとして育てていきたいと考えております。



政治家の石原伸晃さん
もご来場され、熱心に
話を聞いていただきました。



ふとん業界の新たな人材確保策

日本ふとん協会では、2025年度より、人口減少や高齢化による人材不足に対応するため、特定技能外国人の職業紹介事業を開始する予定です。この新たな取り組みを通じ、ふとん業界が抱える人材不足の問題解決に貢献できればと考えています。従来の技能実習生の受け入れは引き続き日本ふとん製造協同組合が受け持ち、協会は特定技能制度を活用した職業紹介で企業と外国人材をつなぐ役割を担います。

特定技能制度は、日本での就労を目的とした在留資格で、即戦力として活躍できる専門性や技能を持つ外国人労働者の受け入れに特化しています。ふとん製造業も「特定産業分野」に加わったことで、特定技能外国人の受け入れが可能となりました。協会は、登録支援機関としてもサポートを行い、紹介後も外国人が安心して働ける環境づくりを支援します。

受け入れ企業には、いくつかの要件が設定されています。たとえば、労働者の人権を尊重し、電子勤怠管理や月給制の給与支払いを導入すること、さらにパートナーシップ構築宣言を実施することが求められます。これにより、労働環境の改善や適正な勤怠管理が期待されています。また、特定技能外国人に対する支援計画の策定や住居支援、日本語学習の機会提供といった支援体制も必要とされ、中小企業には支援機関の活用も推奨されています。協会では、支援機関としての登録も行い、こうした支援計画の策定や実施を通じ、特定技能外国人が安心して生活し、働ける環境づくりをサポートします。

さらに、政府は現行の技能実習制度を見直し、2027年までに「育成就労制度」を導入する予定です。この新制度は、日本の人手不足分野における人材育成と確保を目的としており、技能実習制度とは異なる趣旨を持っています。日本ふとん製造協同組合は、これまでの経験を活かし、育成就労制度の運営も引き続き担当し、外国人労働者の選抜、入国後の研修、生活支援、日本語教育などを通じたサポートを行います。組合は、新制度においても業界全体の人材育成に貢献していく方針です。

協会と組合は、業界全体の人材確保と働きやすい職場環境の実現に向け、特定技能外国人の職業紹介と支援事業の拡充を図るとともに、新たな「育成就労制度」にも対応し、今後もふとん業界の持続的発展に貢献していく所存です。

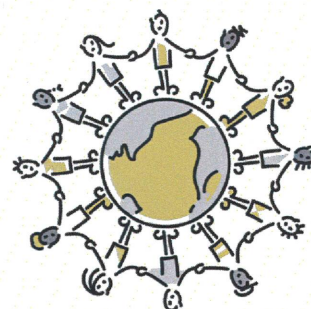
70周年行事のお知らせ

一般財団法人日本ふとん協会は、2025年9月に設立70周年を迎えます。この節目の年に、業界の発展を支え続けてくださった皆様への感謝の気持ちを込め、記念行事を開催いたします。会員の皆様が一堂に会し、これまでの歩みを振り返るとともに、ふとん製造業界の未来について語り合う場として企画しております。

本イベントでは、日本製ふとんの素晴らしさや魅力を改めて発信し、業界全体の結束を深めることを目的としています。

具体的な日時、会場等の詳細につきましては、理事会での決定をもって改めてご案内いたします。どうぞご期待ください。

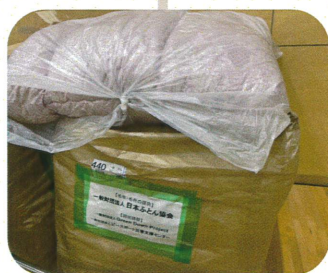
70年の歴史を共に築いてきた皆様とともに、この記念すべき年を祝い、ふとん製造業の新たな可能性を共に探る場となることを願っております。ご多忙中とは存じますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。



能登半島被災地支援活動

昨年、石川県能登地区で相次いだ自然災害を受け、日本ふとん協会では被災地支援を行いました。協会会員である花嫁わた(株)からの依頼を受け、全国の被災地支援に取り組む(一社)Green Down Project、(一社)ピースボート災害支援センターを通じて、珠洲市と輪島市の仮設住宅へ掛ふとんと毛布100セットを寄贈しました。

寒さが厳しくなる前に被災者の皆様に暖かい掛ふとんを使っていたきたいという思いを込め、寄贈は11月に実施されました。この取り組みを通じて、少しでも被災地の生活を支える一助となればと願っています。



↑生涯学習センター避難所



↑大谷小中学校避難所



↑自然休養村センター避難所

ミャンマー技能実習生面接レポート

2024年1月15日から17日にかけて、日本ふとん製造協同組合はミャンマーのヤンゴンを訪れ、技能実習生の面接を行いました。羽田空港からバンコクでの乗り継ぎを経て約10時間かけて到着したヤンゴンは、軍政の影響による一部地域の不安定さが報道される一方で、市内は比較的穏やかで日常生活も安定している様子が感じられました。



まず「ワクワク日本語学院」を視察し、候補生たちが日本での生活や就業に必要な日本語力と基本的な礼儀やマナーをしっかりと学んでいることを確認しました。候補生たちは現在、日本語能力試験のN4の合格を目指しており、なかにはさらに上位レベルのN3を取得済みの候補生もいるなど、日本語理解度は比較的高い水準です。加えて、日本の文化や労働習慣についての理解も深めており、日本での職場環境にも柔軟に適応できると思われます。

続いて、送出し機関であるミャンマーアンドワールドワイドサービスにて技能実習生の面接および縫製技能の実技見学を行いました。面接ではミシンの使用音や操作を確認しながら、候補生たちの技術レベルを評価しました。ミャンマーには縫製業の経験者が多く、日本の技能実習生として即戦力となる人材が多数存在しているようです。今回の面接では計17名の候補生を対象とし、その中から6名を採用しました。





こうした中、多くのミャンマー人が安全で安定した環境を求め、日本での就業を強く希望しています。一方で、昨今の円安の影響により、日本は他国と比較して給与面での優位性が薄れてきている現状もあります。現時点では確固とした裏付けはないものの、今後は、給与面に加えて労働環境や安全性といった要素も併せてアピールすることが、技能実習生の希望に応える一つの方策となる可能性があります。

今後も当組合では、現地の送出し機関との連携を強化し、日本での生活や就業に適応可能な人材の採用に努めてまいります。また、最新の国際情勢や実習生のニーズを踏まえ、インドネシア、ネパール、バングラデシュなど他の国も視野に入れた調査を進め、受入れ体制のさらなる充実を図ってまいります。

ミャンマーアンドワールドワイドサービス代表のエイプリル氏が来日

11月14日、協会事務所に組合の技能実習生送出し機関であるミャンマーアンドワールドワイドサービス代表、エイプリル氏が来組致しました。

今回の訪問の目的は、協会と特定技能外国人に関する業務提携契約を締結することです。協会は、特定技能外国人に関する事業を開始するにあたり、信頼できる海外機関との連携が不可欠であると考えておりました。現在、組合ではミャンマーアンドワールドワイドサービスを通じてミャンマーからの技能実習生を積極的に受け入れています。ミャンマーの技能実習生は日本語の習得能力に優れており、実習実施先からの評判も高いため、協会が今後進める特定技能外国人の送出し機関として同機関を選定しました。

協会および組合では、引き続き海外機関との関係構築を進め、外国人材の確保に努めてまいります。



JFA ブランド JAPAN FUTON ラベル ご案内

日本ふとん製造協同組合では、2009年2月に「まるごとジャパンラベル」と「日本製ラベル」を発行し、日本製ふとんの差別化を図りました。その後、2019年4月に二つを統合した「JAPAN FUTON」を発行し、さらにステップアップいたしました。

2023年4月より新たな体制になった日本ふとん協会は、これらのブランドを引き継ぐだけでなく、アートディレクターの石川竜太氏にデザインして頂いた、新しいロゴマークを上市いたしました。

ブラッシュアップされた新しい「JAPAN FUTON」ラベルは、一般消費者にも分かりやすいように、従来のスタンダードラベルと同じ基準に一本化しております。また、用途に合わせて下げ札タイプと、織ネームの2種類用意いたしました。

「JAPAN FUTON」ラベルは、日本ふとん協会の会員企業が、国内工場で製造（加工・縫製・検品）した、安心・安全な「日本製ふとん」であることを証明する認証ラベルです。

協会では、今後、国内外の展示会の出展や、プロモーション活動を行いながら、今後もJFAブランドとJAPAN FUTON ラベルの普及に努めていきます。是非、ご活用の際、よろしく願いいたします。



JFA & JFMA NEWS

発行：一般財団法人日本ふとん協会

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-1-4

東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルスクエア 6F

日本ふとん製造協同組合

〒104-0041 東京都中央区新富 1-15-14

相互新富ビル 702



JFA HPはこちらから